

平成16年10月18日
原子力安全対策課
< 16時00分記者発表 >

**敦賀発電所2号機の運転状況について
(A 低圧給水加熱器ドレンタンク常用水位制御弁下流側配管からの漏えいの調査結果)**

(安全協定上の異常事象に該当しない軽微な事象)

このことについて、日本原子力発電株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

敦賀発電所2号機(加圧水型軽水炉; 定格電気出力116.0万kW)は、定格熱出力一定運転中の平成16年10月15日12時45分頃、運転員がタービン建屋1階のA 低圧給水加熱器ドレンタンク常用水位制御弁付近より2次系の水が滴下(約1滴/秒)していることを発見した。

漏えい箇所特定のため、当該部の保温材を取り外したところ、13時55分頃、同制御弁下流側配管(レジューサ部*)からのわずかな漏えいであることが確認された。なお、漏えい箇所の隔離は16時09分に終了し、漏えいは停止している。

この事象による環境への放射能の影響はない。

*レジューサ部: 直径が異なる配管を接続するための円錐台の継手。

[平成16年10月15日記者発表済]

当該漏えい部(レジューサ部)および漏えい部周辺の配管曲がり部等について、外観点検および肉厚測定を実施した。

また、BおよびC 低圧給水加熱器ドレンタンク常用水位制御系統についても隔離を行い、A系統と同位置にあるレジューサ部およびその周辺の配管曲がり部等の外観点検および肉厚測定を実施した。

1. 調査結果

(1) A 低圧給水加熱器ドレンタンク常用水位制御弁下流側のレジューサ部等

(外観点検結果)

- ・漏えい部(レジューサ部)の外観点検の結果、当該制御弁とレジューサ部の溶接線の近傍(レジューサ側のほぼ天頂部)に、長さ約1.0mm、幅約0.1mmの漏えい箇所が確認された。
- ・その他の点検箇所については、異常は認められなかった。

(肉厚測定結果)

- ・当該レジューサ部の肉厚測定の結果、レジューサ部全体に減肉が認められ、必要最小厚さ（制御弁側：3.8mm、下流配管側：4.3mm）を下回る箇所があることが確認された（実測最小値...制御弁側：2.7mm、下流配管側：3.0mm）。
- ・また、当該レジューサ部下流側の配管曲がり部の肉厚測定の結果、レジューサ側に減肉が認められ、必要最小厚さ（4.3mm）と同じ箇所があることが確認された。

(2) BおよびC 低圧給水加熱器ドレンタンク常用水位制御弁下流側のレジューサ部等

(外観点検結果)

- ・A系統と同位置にあるレジューサ部の外観点検の結果、異常は認められなかった。また、その他の点検箇所についても、異常は認められなかった。

(肉厚測定結果)

- ・A系統と同位置にあるレジューサ部の肉厚測定の結果、レジューサ部全体に減肉が認められた。
- ・B系統のレジューサ部については、必要最小厚さを下回る箇所があることが確認された（実測最小値...制御弁側：3.0mm、下流配管側：3.5mm）。
- ・C系統のレジューサ部については、必要最小厚さと同じ箇所があることが確認された（実測最小値...制御弁側：3.8mm、下流配管側：4.5mm）。
- ・また、レジューサ下流側の配管曲がり部の肉厚測定の結果、レジューサ側に減肉が認められたが、必要最小厚さ（4.3mm）は満足していた（実測最小値... B系統：6.0mm、C系統：5.9mm）。

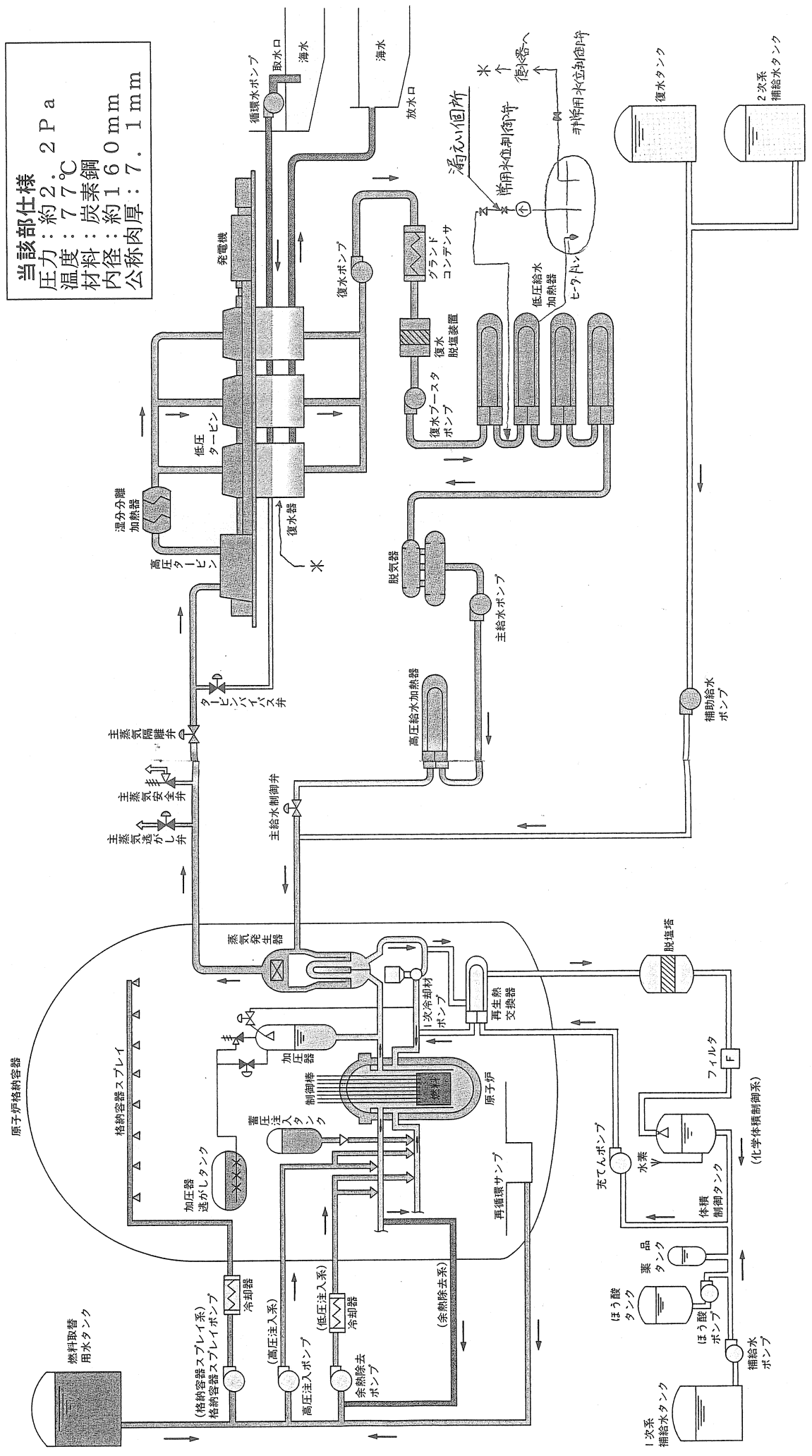
2. 今後の対応

以上のことから、漏えいの原因は、当該制御弁下流部での流れの乱れにより、レジューサ部で減肉が進行したものと推定されているが、次回定期検査（平成16年12月中旬開始予定）で詳細な原因調査を行うとともに、配管取替えを実施する予定である。

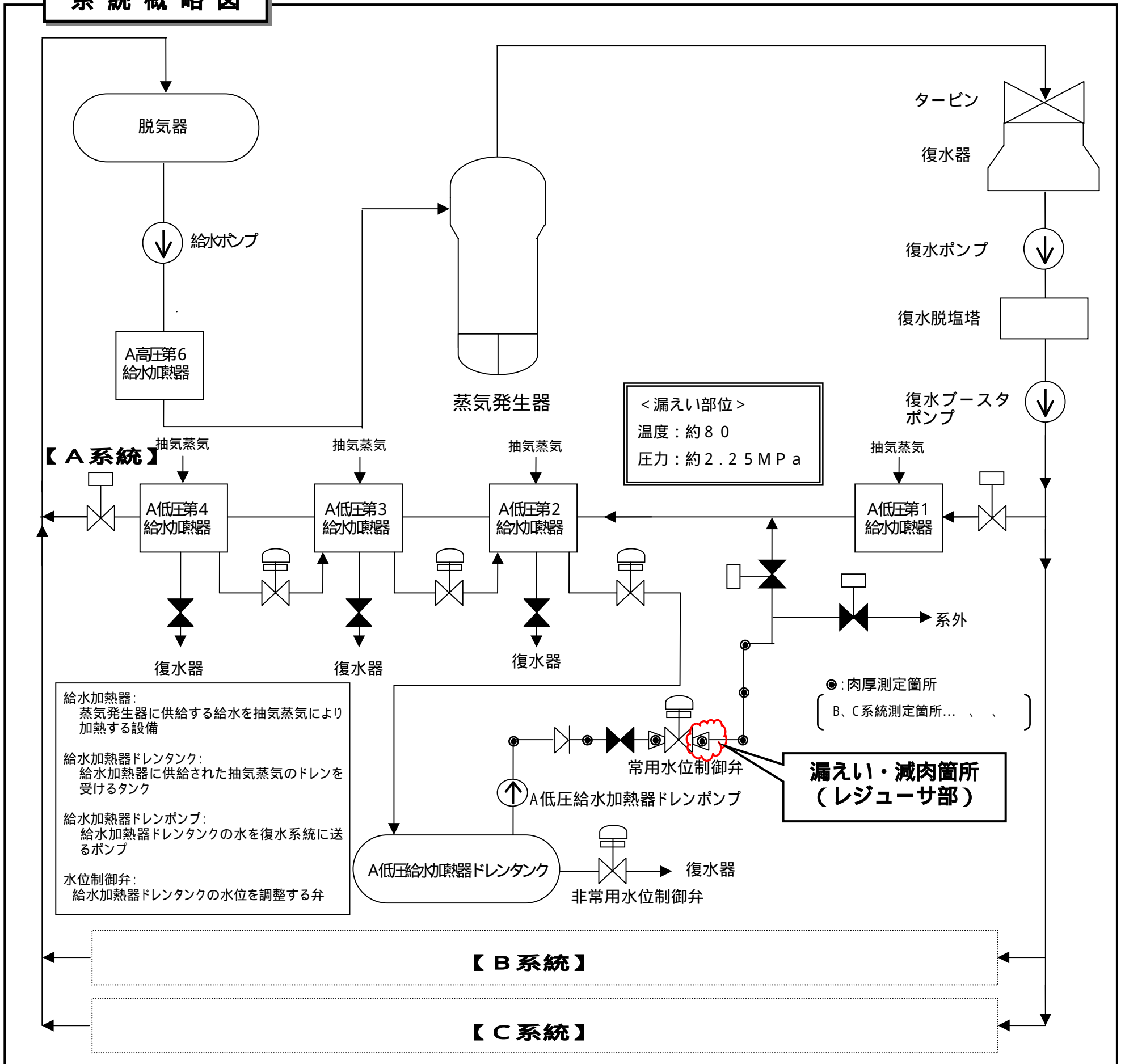
なお、次回定期検査まで、A、B、C 低圧給水加熱器ドレンタンク常用水位制御系統の隔離を継続する。

問い合わせ先(担当：山本) 内線2353・直通0776(20)0314
--

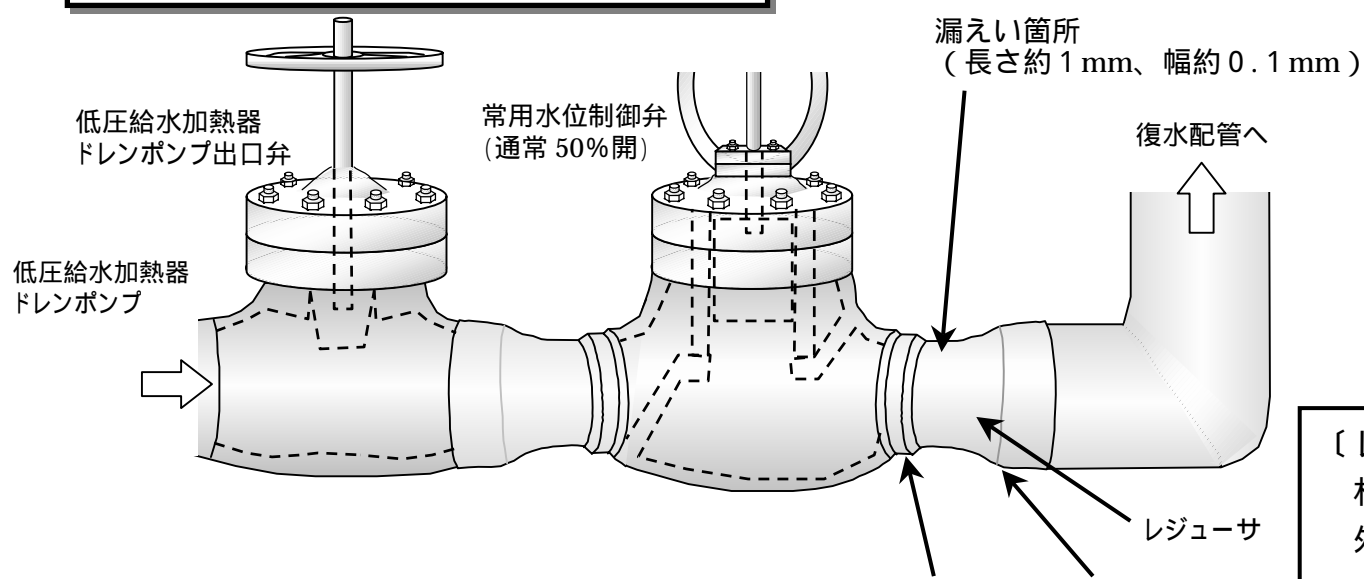
当該部仕様
 圧力：約 2.2 Pa
 温度：77°C
 材料：炭素鋼
 内径：約 160 mm
 公称肉厚：7.1 mm



系統概略図



レジャーサ部の肉厚測定結果



	(測定最小厚さ)	
	制御弁側	配管側
A 系統	2.7 mm	3.0 mm
B 系統	3.0 mm	3.5 mm
C 系統	3.8 mm	4.5 mm

- 【レジャーサ仕様】
- 材 質：炭素鋼
 - 外径寸法：制御弁側：約 160 mm
 配管側：約 210 mm
 - 公称肉厚：制御弁側：7.1 mm
 配管側：8.2 mm
 - 必要最小厚さ：制御弁側：3.8 mm
 配管側：4.3 mm